

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-014661

(43)Date of publication of application : 18.01.2000

(51)Int.Cl.

A61B 5/117
G01B 11/02
// A61K 7/02

(21)Application number : 10-202778

(71)Applicant : POLA CHEM IND INC

(22)Date of filing : 02.07.1998

(72)Inventor : INOUE SAKURA
YAMAMOTO MIEKO
YAMAZAKI KAZUHIRO

(54) DIFFERENTIATION OF FACE OF MIDDLE-AGED WOMEN

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a differentiating and classifying method for the face of a middle-aged women suitable for the actual circumstances by including a face with a comparatively large cross width and large vertical width in a class, in a method for differentiating the face taking the eye size impression and the face profile impression under the eye as indices.

SOLUTION: A differentiating method for the face of a middle-aged woman includes a face with a comparatively large cross width and a comparatively large vertical width in a class, taking the eye size impression and the face profile impression under the eye as indices. Here, the class of the face with a comparatively large cross width and a comparatively large vertical width is a tendency of aging change which starts to be shown when the woman is over 35 years old. This is a pattern of a face class unique to the middle-aged woman in which a woman of an image with long face and narrow lower half part of the face in her younger days stores fat in a region of the chin so that the face width becomes comparatively large. Addition of this class enables classification without any obstacle though differentiation by five types of classes: 'face cross width is large'; 'vertical width of eye is small'; 'face vertical width is large and the cross width is small'; 'both of the cross width and vertical width of eye and face are medium; and 'vertical width of eye is large' is insufficient.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 26.12.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 30.11.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-14661
(P2000-14661A)

(43) 公開日 平成12年1月18日 (2000.1.18)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
A 6 1 B 5/117		A 6 1 B 5/10	3 2 0 B 2 F 0 6 5
G 0 1 B 11/02		G 0 1 B 11/02	H 4 C 0 3 8
// A 6 1 K 7/02		A 6 1 K 7/02	Z 4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数10 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願平10-202778	(71) 出願人	000113470 ポーラ化成工業株式会社 静岡県静岡市弥生町 6 番48号
(22) 出願日	平成10年 7 月 2 日 (1998. 7. 2)	(72) 発明者	井上 さくら 神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地 1 ポーラ化成工業株式会社横浜研究所内
		(72) 発明者	山本 美恵子 神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地 1 ポーラ化成工業株式会社横浜研究所内
		(72) 発明者	山崎 和広 神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地 1 ポーラ化成工業株式会社横浜研究所内
		最終頁に続く	

(54) 【発明の名称】 中年女性の顔の鑑別法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 本発明は、実状に適合した中年女性の顔の鑑別・分類法を提供することを課題とする。

【解決手段】 目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とし、顔を鑑別する方法に於いて、顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い顔を分類に含むことを特徴とする方法で、中年女性の顔を鑑別する。本発明によれば、実状に適合した中年女性の顔の鑑別・分類法を提供することができる。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とし、顔を鑑別する方法に於いて、顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い顔を分類に含むことを特徴とする、中年女性の顔の鑑別法。

【請求項 2】 目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とした分類が、「顔横幅が広い」「顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い」「目の縦幅が小さい」「顔縦幅が長く、横幅が狭い」「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」「目の縦幅が大きい」の 6 分類であることを特徴とする、請求項 1 に記載の中年女性の顔の鑑別法。

【請求項 3】 中年女性の年齢が、35 歳以上 55 歳以下であることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の鑑別法。

【請求項 4】 中年女性の顔を請求項 1～3 の何れか一項に記載の鑑別法で鑑別し、優美さ、力強さ又は温厚さを目標印象とすることを特徴とする、化粧の選択法。

【請求項 5】 中年女性の顔の分類の内、「顔横幅が広い」群、「顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い」群、「目の縦幅が大きい」群及び／又は「目の縦幅が大きい」群の目標印象を優美さとする特徴とする請求項 4 に記載の化粧の選択法。

【請求項 6】 中年女性の顔の分類の内、「目の縦幅が小さい」群の目標印象を力強さとする特徴とする、請求項 4 又は 5 に記載の化粧の選択法。

【請求項 7】 中年女性の顔の分類の内、「顔縦幅が長く、横幅が狭い」群の目標印象を温厚さとする特徴とする、請求項 4～6 の何れか一項に記載の化粧の選択法。

【請求項 8】 請求項 4～7 の選択法で選択された優美さの目標印象をつくる為に、目を大きく見せる化粧を施すことを特徴とする、化粧法。

【請求項 9】 請求項 4～7 の選択法で選択された力強さの目標印象をつくる為に、眉の位置が低く、こく見える化粧を施すことを特徴とする、化粧法。

【請求項 10】 請求項 4～7 の選択法で選択された温厚さの目標印象をつくる為に、頬を明るく見せる化粧を施すことを特徴とする、化粧法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、化粧法や化粧料などの選択に有益な、中年女性の顔の分類法に関する。

【0002】

【従来の技術】顔をその印象から分類することは、適切な化粧料を選択したり、印象の良い化粧方法を選択したりする上で非常に大事なことである。これは、同一人物であっても、その化粧法によって作り出すイメージが大きく異なったり、その人のイメージを良く見せたり、悪く見せたりするため、人間関係を築いていく上では重要な因子であるからである。この様な観点から、様々な

人を対象に分類・評価を行った結果、本発明者らは、20～30 代の女性に関して、目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とし、「顔横幅が広い」「目の縦幅が小さい」「顔縦幅が長く、横幅が狭い」「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」「目の縦幅が大きい」の 5 つのタイプに分類・鑑別することにより、適切な化粧料や化粧法の選択が為しうることを見いだした。この様な知見を基に、更に適用年代を広げたところ、この分類に当てはまらない例が、数多く、見受けられることに気がついた。これにより、中年女性の顔の分類に対しては、従来の 5 分類を改良する必要に迫られた。即ち、実状に適合した中年女性の顔の分類が求められていた。

【0003】一方、中年の女性に関して、目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とし、「顔横幅が広い」「顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い」「目の縦幅が小さい」「顔縦幅が長く、横幅が狭い」「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」「目の縦幅が大きい」の 6 つのタイプに分類・鑑別することは全く知られていなかったし、「顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い」分類の登場が、中年女性に特有の現象であることも全く知られていなかった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、この様な状況下為されたものであり、実状に適合した中年女性の顔の鑑別・分類法を提供することを課題とする。

【0005】

【課題の解決手段】かかる状況に鑑みて、本発明者らは、実状に適合した中年女性の顔の分類法を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とし、顔を鑑別し、「顔横幅が広い」「顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い」「目の縦幅が小さい」「顔縦幅が長く、横幅が狭い」「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」「目の縦幅が大きい」の 6 つに分類する事により、実状に適した中年女性の顔の分類が為しうることを見だし、発明を完成させるに至った。以下、本発明について、実施の形態を中心に更に詳細に説明を加える。

【0006】

【発明の実施の形態】(1) 本発明の鑑別法

40 本発明の鑑別法は、目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とし、顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い顔を分類に含むことを特徴とする。ここで、顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い顔の分類は、女性が 35 歳を越えると出始める、加齢変化の傾向であり、これは元は顔が長く、顔の下半部が細いイメージの人が、加齢とともに顎の部分に脂肪が蓄積され、顔幅が比較的広いイメージになったもの(下膨れ傾向)であり、中年女性に特徴的な顔分類のパターンである。この分類を加えることにより、「顔横幅が広い」「目の縦幅が小さい」「顔縦幅が長く、横幅が狭い」「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程

度」「目の縦幅が大きい」の5つのタイプの分類による鑑別では鑑別不十分であったものが、支障無く分類し得るようになる。後記の如く、かかる6分類の顔により作り出すイメージは大きく異なるため、このような分類で鑑別することにより、適切な化粧や化粧法が選択することが出来る。この6分類をマップに配置すると、図1に示す分類図となる。尚、本発明の鑑別法が適用されるのは35歳以上55歳以下の女性が好ましく、中でも、40代の女性が特に好ましい。

【0007】(2) 6分類に於ける顔のイメージ

この、「顔横幅が広い」(F1)、「顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い」(F2)、「目の縦幅が小さい」(F3)、「顔縦幅が長く、横幅が狭い」(F4)、「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」(F5)、「目の縦幅が大きい」(F6)の6分類において、それぞれの分類に属する顔の印象の特徴は、F1が力強い、F2がやや力強い、F3が弱々しくやや冷たい、F4がやや冷たく優美、F5がやや温厚、F6がやや弱々しく優美である。ここで、顔の印象に関して、顔印象を表す形容詞を因子分析した結果を表1に示す。これは、様々な顔をモーフニングを用いて作り出し、別途顔の表現に使用される形容詞を頻度順に抽出して作成した、12対の形容詞軸を用いて多数のパネラーに評価してもらった。これを因子分析にかけた結果である。これより、顔印象は、優美さ、温厚さ、力強さ及び若々しさの5軸で構成されることがわかる。更に、これらの顔を上記6分類に分類し、魅力を感じる程度と前記顔印象の4因子との相関を取った結果を図2に示す。これより、これら6分類の顔に於いて、感じる魅力は、F1、F2、F5及びF6が優美さ、F3が力強さ、F4が温厚さであることがわかる。即ち、これらの印象を強めるような化粧をすることにより、他人に、より大きな魅力を感じさせることが出来ることわかる。

【0008】(3) 本発明の顔の鑑別法の応用

本発明の鑑別法を用いることにより、上記の如く顔の分類に合わせた、魅力ある装いができる。上記の如く、顔の分類により、魅力が異なることからこの様な選択が極めて有用であることもわかるし、かかる分類法が適切であることもわかる。上記の如く魅力ある顔にするには、例えば、次に挙げられるような手段が考えられる。即

* ち、F1、F2、F5又はF6の分類に属する人であれば、目を大きく見せるような装いをすることにより、上品で落ちついた印象を高めることが出来、重要な印象である、優美さの程度を上げることが出来る。F3の分類に属する人であれば、眉の位置を下げて濃くはっきりと描くことにより、きりっとして上品な印象を高めることが出来、以て、力強さの程度を上げることが出来る。更に、F4の分類に属する人であれば、頬を明るく装うことで、おおらかで知的なイメージを高めることが出来、以て温厚さの印象を高めることが出来る。この様に、本発明の鑑別法により、顔のタイプを鑑別し、適した化粧法を選択することが出来る。

【0009】

【実施例】以下に、実施例を上げて、本発明について更に詳細に説明を加えるが、本発明がかかる実施例にのみ限定を受けないことは言うまでもない。

【0010】<実施例1> 40代の女性96名の顔写真を集め、任意に選抜した19名のパネラーを用いて、そのイメージを次の表1に示す12対の言葉からなる軸上の位置(5段階)にマーキングをしてもらい、その程度を評定してもらった。又、同時に魅力の印象も同様に評定してもらった。これら96枚の写真について、図3に示す部位の物理量を測定し、各顔の似た印象のものをグルーピングした後、これらの数値間の分布より相似性を算出し、デンドログラムを作成した。このデンドログラムについて、種々の位置で切り出し、顔写真を並べ、適切な切り口を探したところ、6分類になるような切り口が見いだされた。これを図4に示す。これを基に、6分類を目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象の2軸からなる平面にプロットすると、図1に示すようなF1～F6のプロットが得られた。又、12対の評定結果を因子分析にかけると、図2に示す様な4つの因子が見いだされた。この4つの因子について、F1～F6のプロット、魅力の印象との関係を見ると、図2に示す関係が見いだされた。これより、これら6分類の顔に於いて、感じる魅力は、F1、F2、F5及びF6が優美さ、F3が力強さ、F4が温厚さであることがわかる。

【0011】

【表1】

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 洗練されたーやぼったい | 2. きれいーみにくい |
| 3. 上品なー下品な | 4. 親しみやすいー親しみにくい |
| 5. あたたかいーつめたい | 6. おおらかなー神経質な |
| 7. 力強いー弱々しい | 8. 頼りがいのあるーふがない |
| 9. 生き生きとしたー生気のない | 10. 活発なー落ち着いた |
| 11. 成熟したー子供っぽい | 12. 若々しいー老けた |

【0012】＜実施例2＞顔の写真から測定した物理量より、F1、F2、F5及びF6の何れかに分類される人について、目を大きく見せるような化粧（化粧1）、眉の位置を下げて濃くはっきりと描く化粧（化粧2）、頬を明るく化粧（化粧3）をした。それぞれの化粧仕上りを写真に撮り、任意に選定した評定者10名で魅力を感じるか否かを++：非常に魅力を感じる、+：魅力を感じる、±：やや魅力を感じる、-：魅力を感じないの基準で評定してもらった。結果を、表2に出現例数として示す。これより、本発明の鑑別法が適切に化粧の仕方を選択できることがわかる。本発明の鑑別法を用いれば、他人が好ましく思う化粧をすることが出来る。

【0013】

【表2】

化粧法	++	+	±	-
化粧1	3	5	2	
化粧2		3	6	1
化粧3	1	1	5	3

【0014】＜実施例3＞顔の写真から測定した物理量より、F3に分類される人について、目を大きく見せるような化粧（化粧1）、眉の位置を下げて濃くはっきりと描く化粧（化粧2）、頬を明るく化粧（化粧3）をした。それぞれの化粧仕上りを写真に撮り、任意に選定した評定者10名で魅力を感じるか否かを++：非常に魅力を感じる、+：魅力を感じる、±：やや魅力を感じる、-：魅力を感じないの基準で評定してもらった。結果を、表3に出現例数として示す。これより、本発明の鑑別法が適切に化粧の仕方を選択できることがわかる。本発明の鑑別法を用いれば、他人が好ましく思う化粧をすることが出来る。

【0015】

【表3】

化粧法	++	+	±	-
化粧1	1	5	4	
化粧2	4	3	3	
化粧3		1	7	2

【0016】＜実施例4＞顔の写真から測定した物理量より、F4に分類される人について、目を大きく見せるような化粧（化粧1）、眉の位置を下げて濃くはっきりと描く化粧（化粧2）、頬を明るく化粧（化粧3）をした。それぞれの化粧仕上りを写真に撮り、任意に選定した評定者10名で魅力を感じるか否かを++：非常に魅力を感じる、+：魅力を感じる、±：やや魅力を感じる、-：魅力を感じないの基準で評定してもらった。結果を、表4に出現例数として示す。これより、本発明の鑑別法が適切に化粧の仕方を選択できることがわかる。本発明の鑑別法を用いれば、他人が好ましく思う化粧をすることが出来る。

【0017】

【表4】

化粧法	++	+	±	-
化粧1	1	1	3	5
化粧2		2	3	5
化粧3	4	5	1	

【0018】

【発明の効果】本発明によれば、実状に適合した中年女性の顔の鑑別・分類法を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

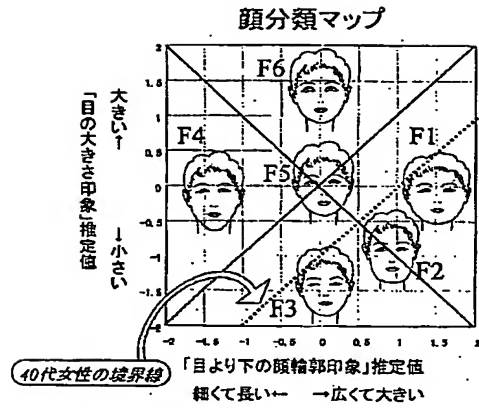
【図1】 中年女性の顔の6分類を示す図である。

【図2】 魅力を感じる程度と顔印象の4因子との相関を示す図である。

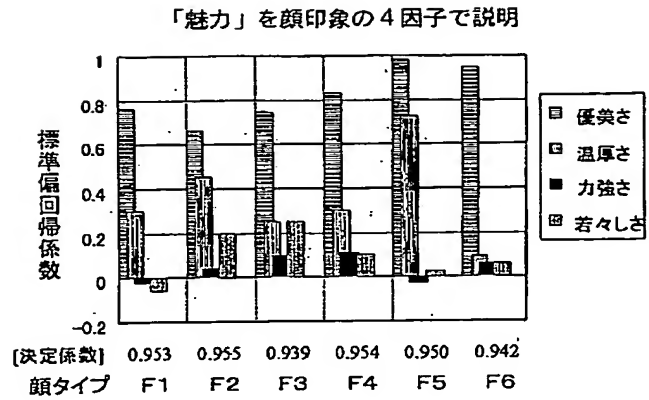
【図3】 顔の物理量の測定部位を示す図である。

【図4】 顔の物理量間の関係のデンドログラムを示す図である。

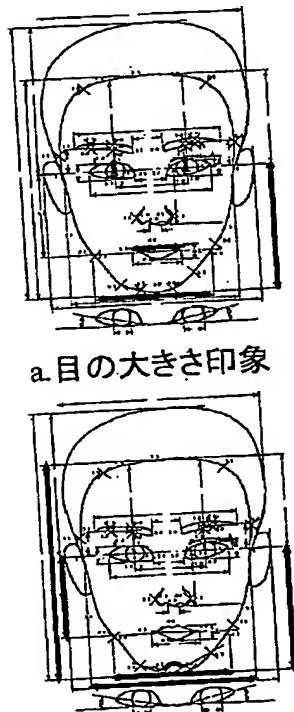
【図1】



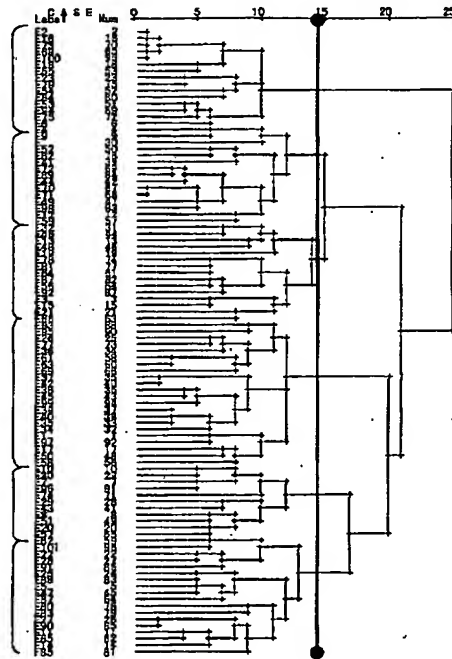
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

F ターム(参考) 2F065 AA22 AA23 AA45 AA51 AA61
BB05 BB24 CC16 DD00 FF04
JJ03 JJ26
4C038 VA04 VA08 VB04 VB05 VB08
VB36 VC05
4C083 EE06 EE50

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成15年3月25日(2003.3.25)

【公開番号】特開2000-14661(P2000-14661A)
 【公開日】平成12年1月18日(2000.1.18)
 【年通号数】公開特許公報12-147
 【出願番号】特願平10-202778
 【国際特許分類第7版】

A61B 5/117
 G01B 11/02
 // A61K 7/02
 【F1】
 A61B 5/10 320 B
 G01B 11/02 H
 A61K 7/02 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成14年12月26日(2002.12.26)

【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】請求項5
 【補正方法】変更
 【補正内容】

【請求項5】 中年女性の顔の分類の内、「顔横幅が広い」群、「顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い」群、「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」群及び／又は「目の縦幅が大きい」群の目標印象を優美さとすることを特徴とする請求項4に記載の化粧の選択法。

【手続補正2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0002
 【補正方法】変更
 【補正内容】
 【0002】

【従来の技術】顔をその印象から分類することは、適切な化粧料を選択したり、印象の良い化粧方法を選択したりする上で非常に大事なことである。これは、同一人物であっても、その化粧法によって作り出すイメージが大きく異なったり、その人のイメージを良く見せたり、悪く見せたりするため、人間関係を築いていく上では重要な因子であるからである。この様な観点から、様々な人を対象に分類・評価を行った結果、本発明者らは、20～30代の女性に関して、目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とし、「顔横幅が広い」「目の縦幅が小さい」「顔縦幅が長く、横幅が狭い」「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」「目の縦幅が大きい」の5つのタイプに分類・鑑別することにより、適切な化粧料や化粧法の選択を為しうることを見いだした。この様な知

見を基に、更に適用年代を広げたところ、この分類に当てはまらない例が、数多く、見受けられることに気がついた。これにより、中年女性の顔の分類に対しては、従来の5分類を改良する必要に迫られた。即ち、実状に適合した中年女性の顔の分類が求められていた。

【手続補正3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0006
 【補正方法】変更
 【補正内容】
 【0006】

【発明の実施の形態】(1)本発明の鑑別法
 本発明の鑑別法は、目の大きさ印象と目より下の顔輪郭印象とを指標とし、顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い顔を分類に含むことを特徴とする。ここで、顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い顔の分類は、女性が35歳を越えると出始める、加齢変化の傾向であり、これは元は顔が長く、顔の下半部が細いイメージの人が、加齢とともに顎の部分に脂肪が蓄積され、顔幅が比較的広いイメージになったもの(下膨れ傾向)であり、中年女性に特徴的な顔分類のパターンである。この分類を加えることにより、「顔横幅が広い」「目の縦幅が小さい」「顔縦幅が長く、横幅が狭い」「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」「目の縦幅が大きい」の5つのタイプの分類による鑑別では鑑別不十分であったものが、支障無く分類し得るようになる。後記の如く、かかる6分類の顔により作り出すイメージは大きく異なるため、この様な分類で鑑別することにより、適切な化粧や化粧法を選択することが出来る。この6分類をマップに配置すると、図1に示す分類図となる。尚、本発明の鑑別法が適用されるのは35歳以上55歳以下の女性が好ましく、中でも、40代の女性が特に好ましい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】(2)6分類に於ける顔のイメージ

この、「顔横幅が広い」(F1)、「顔横幅が比較的広く顔縦幅が長い」(F2)、「目の縦幅が小さい」(F3)、「顔縦幅が長く、横幅が狭い」(F4)、「目と顔の横幅、縦幅が何れも中程度」(F5)、「目の縦幅が大きい」(F6)の6分類において、それぞれの分類に属する顔の印象の特徴は、F1が力強い、F2がやや力強い、F3が弱々しくやや冷たい、F4がやや冷たく優美、F5がやや温厚、F6がやや弱々しく優美である。ここで、顔の印象に関して、顔印象を表す形容詞を因子分析した結果を表1に示す。これは、様々な顔をモーフィングを用いて作り出し、別途顔の表現に使用される形容詞を頻度順に抽出して作成した、12対の形容詞軸を用いて多数のパネラーに評価してもらった。これを因子分析にかけた結果である。これより、顔印象は、優美さ、温厚さ、力強さ及び若々しさの4軸で構成されることがわかる。更に、これらの顔を上記6分類に分類し、魅力を感じる程度と前記顔印象の4因子との相関を取った結果を図2に示す。これより、これら6分類の顔に於いて、感じる魅力は、F1、F2、F5及びF6が優美さ、F3が力強さ、F4が温厚さであることがわかる。即ち、これらの印象を強めるような化粧をすることにより、他人に、より大きな魅力を感じさせることが出来ることわかる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正内容】

【0012】<実施例2>

顔の写真から測定した物理量より、F1、F2、F5及びF6の何れかに分類される人について、目を大きく見せるような化粧(化粧1)、眉の位置を下げて濃くはっきりと描く化粧(化粧2)、頬を明るく見せる化粧(化粧3)をした。それぞれの化粧仕上りを写真に撮り、任意に選定した評定者10名で魅力を感じるか否かを+

+:非常に魅力を感じる、+:魅力を感じる、±:やや魅力を感じる、-:魅力を感じないの基準で評定してもらった。結果を、表2に出現例数として示す。これより、本発明の鑑別法が適切に化粧の仕方を選択できることがわかる。本発明の鑑別法を用いれば、他人が好ましく思う化粧をすることが出来る。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正内容】

【0014】<実施例3>

顔の写真から測定した物理量より、F3に分類される人について、目を大きく見せるような化粧(化粧1)、眉の位置を下げて濃くはっきりと描く化粧(化粧2)、頬を明るく見せる化粧(化粧3)をした。それぞれの化粧仕上りを写真に撮り、任意に選定した評定者10名で魅力を感じるか否かを++:非常に魅力を感じる、+:魅力を感じる、±:やや魅力を感じる、-:魅力を感じないの基準で評定してもらった。結果を、表3に出現例数として示す。これより、本発明の鑑別法が適切に化粧の仕方を選択できることがわかる。本発明の鑑別法を用いれば、他人が好ましく思う化粧をすることが出来る。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正内容】

【0016】<実施例4>

顔の写真から測定した物理量より、F4に分類される人について、目を大きく見せるような化粧(化粧1)、眉の位置を下げて濃くはっきりと描く化粧(化粧2)、頬を明るく見せる化粧(化粧3)をした。それぞれの化粧仕上りを写真に撮り、任意に選定した評定者10名で魅力を感じるか否かを++:非常に魅力を感じる、+:魅力を感じる、±:やや魅力を感じる、-:魅力を感じないの基準で評定してもらった。結果を、表4に出現例数として示す。これより、本発明の鑑別法が適切に化粧の仕方を選択できることがわかる。本発明の鑑別法を用いれば、他人が好ましく思う化粧をすることが出来る。